

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和2年度 学校報 第20号 令和2年11月30日

発行責任者：瑞浪北中学校校長

担当者：瑞浪北中学校教頭



<合言葉> クリエイティブ瑞浪北中 2nd year
—学校の特長を確かなものにする年—

教科書や教室から飛び出す学び

校長



校門前のモミジの葉がすっかり姿を消しました。それとバトンタッチするかのよう、鮮やかな赤が印象的な山茶花が咲き始めました。立冬はとうに過ぎています。これから本格的な寒さがやってきます。

花と言えば、春や夏をイメージします。しかし、全てがそうではありません。わざわざ寒くなる季節を選んで咲き誇る山茶花のような花もあります。私は山茶花が好きです。なぜなら、主張があるように感じるからです。周りに迎合しない芯の通った強さを感じます。「他の花たちはどうであれ、私は寒くなってから咲くんだ!」という声が聞こえてきそうな気がします。

先日、某塾の講師の書いた文章を目にしました。その方は、普段小学生を対象に国語を教えている方々の方です。文章も小学生をイメージして書かれたものようでしたが、内容は中学生、いや高校生にも十分当てはまるものだと思います。「国語を勉強するのは何のため?」と題された部分には次のように書かれていました。

人はひとりでは生きていくことができません。多くの人々と関わり合い、助け合いながら生きていきます。そうして、他者とともに生きていくためには、「コミュニケーション」—互いの思っていること・考えていることを上手に伝え合うこと—が欠かせません。

「話す」「聞く」「読む」「書く」

国語で学ぶことは、コミュニケーションのための方法です。他者にとって書かれたものや相手の話すことを正確に理解する力がなければ、相手の望みに応えることはできません。自分の思い・考えを上手に表現することができなければ、相手にそれを理解してもらうことができません。

つまり、国語という教科は、子どもたちが自分と関わり合う人々と上手に付き合っていくためのものなのです。

同じようなことを、私も若い頃、生徒たちに語っていたことを思い出しました。

「無人島に漂着した時、生きていく上で言葉は必要ない。しかし、そこにもう一人流れ着くと、二人となり、そこにコミュニケーションが生まれ、言葉が必要になってくる。これが国語を学ぶ理由だよ。」

そこそこ話せて、そこそこ聞ける。そこそこ読めて、そこそこ書ける。……これでも生きてはいけるでしょうが、上手に人と付き合えるかどうかはわかりません。うまく付き合えなければ、その後の人生が豊かなものにならない可能性は十分あります。私たちの人間としての営みはコミュニケーションの上に成り立っていることを忘れてはならないのです。

NHKで放映されている「チョコちゃんに叱られる!」では、「なぜ数学を勉強するの?」という疑問を解明していました。チョコちゃんの答えは、「論理的思考が身に付くから」でした。数字や記号が並んだ難しい問題を解けるようにするためではなく、筋道立てて、合理的な考え方ができるようにするために数学を学んでいるとのこと。

番組では「カレー作り」を例に説明していました。玉ねぎを切って鍋に入れ、じゃがいもを切って鍋に入れ、にんじんを切って鍋に入れ、というように「切って鍋に入れる」という行為を繰り返してカレーを作る人はまずいません。私たちは全ての材料を切っておいてから、鍋に入れていきます。包丁をもったり置いたりする手間、切ったものから鍋に入れる手間を省いてカレー作りを進めます。これが「論理的な思考」であり、この場合は「因数分解」の考え方が反映されているのです。

数学を学ぶことにより、生活に欠かせない論理的な思考を身に付ける力を養っているわけです。そんなことを意識して数学を勉強していないというのが正直なところでしょう。しかし、意識してないだけで、数学を学んでいるから、そういう思考が身につく生活の中で発揮されるようです。

今日の授業巡視では、3年D組が社会で「裁判の種類」について学習していました。「勝訴」「敗訴」の表示を掲げながら走ってくる人の映像を見たことはないかという授業者の問いかけに、生徒たちは興味深そうにうなずいて反応していました。しかし、それで終わってはいけません。今日の授業をきっかけにして、これから新聞の記事や報道番組の中の裁判に関わるニュースに敏感にならなければなりません。

1年A組の英語では、“What ~ do you like?”という表現の学習をしていました。授業中に仲間同士で交流するだけではいけません。授業後に、ALTや他の教師、はたまた家族にその表現を使って積極的に話しかけると、意外な発見や喜びが得られるかもしれません。

3年C組は、スケールの大きな天体の学習を、小さな理科室で進めていました。「北極星はなぜ動かないか」という授業者の問いかけに、生徒たちは真剣に取り組んでいました。これも理科室での学習にとどまっていたはいけません。外に出て、澄んだ夜空を見上げながら、授業で学んだことを直に確かめてほしいですね。野口聡一さんも宇宙に飛び立ったことですね。これを宇宙の勉強に結びつけるとおもしろいかもしれません。

テストのための勉強だと考えている人はいないでしょうが、知識だけを得る、問題を解くだけでは、学ぶ意欲がわかないですし、テストが終わったら空しさや解放感が残らないような気がします。学んだことが実際に力として発揮されると、それが学びの喜びとなり、更なる意欲がわいてくるような気がします。教科書や教室から飛び出す学びを目指してみてもどうでしょうか。

岐阜県PTA連合会からのメッセージ

県PTA連合会会長から、会員の皆様にメッセージが届きました。内容は、オンラインゲームに関する注意喚起です。下に紹介いたしますので、ご一読ください。

昨今、インターネットを利用したオンラインゲームでのトラブルが話題に上がっています。具体的には、「フォートナイト（対象年齢15歳以上）」や「荒野行動（対象年齢17歳以上）」などのゲーム名があがっており、こうしたゲームはプレイヤーが生き残って勝者になるために、武器や仲間を見つけて戦う戦闘ゲームですが、以下のような点が全国的に問題になっています。

- **親に内緒で課金する** → 課金に起因した仲間はずれや「いじめ」を誘発することがある。
- **ボイスチャット機能を利用し、ゲーム中に攻撃的な言動をとる**
 - 日常生活や学校生活でも暴力的な言葉や差別的な言葉を使う傾向が強くなる。
 - 攻撃的な言動で「いじめ」を誘発することがある。
- **不特定多数の人と知り合いになる**
 - 個人情報や漏らしたり交友関係が広がったりして、トラブルに巻き込まれることがある。
 - 今年9月には、オンラインゲームを接点とした小4 女児誘拐事件が発生した。
- **中毒性があり止められなくなる**
 - 最後まで勝ち残ることが目的のため、夢中になり時間を忘れてゲームに没頭してしまうことがある。
 - 昼夜逆転になり、生活習慣が乱れ、授業に集中できないことがある。

こういった状況を踏まえて、岐阜県PTA連合会では会員の皆様に対し、オンラインゲームに関する注意喚起をお願いすることになりました。

子どもたちが安全にゲームを楽しむための各家庭でのルール作りなど、子どもたちと積極的にコミュニケーションを取り、ゲームの利用状況に関してご留意くださいますようお願いいたします。